

令和4年度 和歌山大学大学院教育学研究科専門職学位課程（教職大学院）

第一次入学試験問題・解答用紙 [小論文] (2枚の内の1)

受験番号	
------	--

コース：特別支援教育コース

---

※

キャリアという語について、中央教育審議会は、「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね」であると解釈を示している。また、キャリア教育を、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義している。

〈出典〉中央教育審議会『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）』平成23年1月31日

問題

特別支援教育におけるキャリア教育について、特別活動や各教科等の特質を踏まえ、生活年齢と発達段階と障害特性に応じた指導の在り方を、具体的な例を挙げながら論じなさい。

解答

コース：特別支援教育コース

---

【出題の意図】

この出題の解答に当たっては、まず特別支援教育の理念と、キャリア教育の目的との間に本来深い関連があることを踏まえる必要がある。

特別支援教育とは、「障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うもの」である。※1 一方、キャリア教育は、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義され、そのキャリア発達は、「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程」とされている。※2

すなわち、特別支援教育におけるキャリア教育は、狭義の職業訓練や進路指導、作業学習等にとどまらず、障害のある児童のキャリア発達を支援する取り組みとして、学校教育の全般に渡って考えることが大切である。本出題では、特別活動や各教科等の特質を踏まえつつ、キャリア教育の展開を、個別の指導計画や個別の教育支援計画の中へ位置付けるなど、実践的に具体化して示すことを求めている。また特別支援学校の教育においては、自立活動の目標と、特別活動や各教科等の指導を関連付けながら、キャリア教育の実践を論じることなどが考えられる。

生活年齢と発達段階に応じた指導の在り方について、知的障害や発達障害を有する児童においては、この二つが必ずしも一致しないことを考慮する必要がある。障害のある児童の発達には個人差が大きく、たとえ年齢や所属学年が同じ児童であっても、キャリア発達の課題は一律に決まらない。そこで、小学校（小学部）、中学校（中学部）、高等学校（高等部）といった学校教育の段階を踏まえつつ、一人一人の発達や障害の状態に応じたキャリア教育の在り方について考察することを求めている。

さらに、特別支援教育における自立や社会参加の概念は極めて幅広い。例えば、常時の医療的ケアを必要とするような重度・重複障害児や、進行性の障害を有する児童にとってのキャリア発達とその支援は、特定の職業分野で資格や技能の習得を目指す視覚障害者や聴覚障害者の就労支援とは著しく異なっている。そこで、本出題では、キャリア教育の意義を一般論として述べるのではなく、対象とする障害や発達の状況を前提として、具体例を挙げながら論考することが期待されている。

※1：『特別支援教育の推進について（通知）』文部科学省初等中等教育局，平成19年4月1日。

※2：『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）』中央教育審議会，平成23年1月31日。